

この冊子は、中学校での「目標に準拠した評価」による各教科の学習内容や評価内容、年間指導計画などを説明しています。

また、「家庭学習のてびき」として、家庭学習で大切なことや具体的なアドバイス、ヒントなどを説明しています。みなさんが、自分の力で目標を持って学習を進めていけるよう活用してください。

目標に準拠した評価について

1. 目標に準拠した評価とは

生徒が学習指導要領の示す目標に向けて、どのように変容しているのか、その実現状況を見るために学習の評価を行います。みなさん一人ひとりの各教科の学習状況について、授業やプリント、テストなどの日常の学習の結果を評価します。

目標に準拠した評価とは、各教科の単元や一定の学習のまとまりにおいて、観点別に設定した評価規準などについて、どれだけ達成しているかで判断した学習評価です。

2. 目標準拠評価について具体的な評価の流れ

◎観点別学習状況評価を行います。

基本的には「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習にと取り組む態度」の3観点で評価

☆「知識・技能」…各教科において習得すべき知識や重要な概念を身につけているかを評価します。

☆「思考・判断・表現」…各教科の知識・技能を活用して課題を解決することなどのために必要な思考力、判断力、表現力を身につけているかを評価します。

☆「主体的に学習に取り組む態度」…各教科が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身につけているかを評価します。

○評価方法について、各教科の「指導計画・評価計画」において設定された方法で評価します。

(例：ノート、ワークシート、ペーパーテスト、レポート、作品、授業中の様子など)

○各観点別に、A…十分満足できる、B…おおむね満足できる、C…努力を要するの三段階で評価します。

◎評定について

各教科における毎時間の評価の集積から、学期ごとに評価したABCと5段階の評定で表します。(泉佐野市内で統一した算出方法で評定を策定)

- | |
|------------------------------------|
| 5…「十分満足できると判断されるもののうちから、特に程度の高い」もの |
| 4…「十分満足できると」判断されるもの |
| 3…「概ね満足できる」と判断されるもの |
| 2…「努力を要する」と判断されるもの |
| 1…「一層の努力を要する」と判断されるもの |

3. チャレンジテストと調査書の評定の決定について (大阪府教育委員会より)

◎チャレンジテストの目的

「チャレンジテスト」は大阪府内統一のテストです。このテストは、自分の学習状況を正しく知り、目標を持って学習に取り組むことを目的に実施します。加えて、調査書の評定の決定にあたって、公平性が保たれるようにこのチャレンジテストの結果を使います。

チャレンジテストの実施時期
と教科

| 学年 | 実施時期 | 対象教科 |
|-----|------|--------------------|
| 1年生 | 1月 | 3教科：国語・数学・英語 |
| 2年生 | 1月 | 5教科：国語・社会・数学・理科・英語 |
| 3年生 | 9月 | 5教科：国語・社会・数学・理科・英語 |

◎チャレンジテストの扱い

調査書の評定は、1年間の授業、宿題、テストなど、中学校における皆さん一人ひとりの頑張りをもとに中学校が決定するものです。

入試で使う評定が、府内のどの中学校でも公平につけられるように、チャレンジテストの点数を使って、「評定の範囲」や「評定平均の範囲」を設定しています。

チャレンジテストを使った府内統一ルールと調査書の評定の関係

| | 府内統一ルール | ルールの使い方 |
|-----|---------|------------------------------------------|
| 全学年 | 評定平均の範囲 | 中学校全体の「評定平均」が中学校全体の「評定平均の範囲」に収まっていることを確認 |

4. 高校入試における調査書の評定について

◎高校入試の合否判定

- 大阪府公立高等学校入学者選抜において、【学力検査（5教科）の成績】と【調査書の評定（9教科）の成績】にそれぞれの倍率をかけて合計した総合点で合否判定を行います。

◎調査書の評定について

- 調査書の評価対象学年は、第1学年から第3学年です。
- 中学1年からの学習活動を幅広く評価するとともに、中学3年での学力をより重視する観点から、第3学年の評定を第1、第2学年の評定の合計より重く評価することとし、各学年の評定の比率を、3年：2年：1年 = 3：1：1とします。



家庭学習の必要性

中学校では、小学校のときより、学習する量が多く内容も深くなります。理解が不十分なまま放置すると、授業が分からなくなります。毎日の家庭学習で復習し、分からない時は自分で考え方や解き方を調べたり、学校で先生や友だちに聞いたりして理解を確かなものにする必要があります。

また、定期テストや部活動も始まることから、自分で自由に使える時間が少なくなります。テレビやゲーム、友だちとの会話など、自由に楽しむ時間から家庭学習の時間を作り出す『時間をやりくりする力』が必要になります。そして、気持ちを切り替えて家庭学習に集中する『自分をコントロールする力』も必要になります。このような『時間をやりくりする力』や『自分をコントロールする力』は、社会人として大変重要な力で、毎日の家庭学習や中学校でのいろいろな場面で、身につけていくように意識しましょう。

次に、中学生の学習の特徴を具体的に紹介します。

◇授業の進め方が速くなるので、集中して授業に取り組みましょう。

1時間の学習量が増え授業進度が速くなります。50分の授業時間の中で、何について学習するのか（めあて）を意識し、授業の終わりに何が分かったのか、何ができるようになったのか振り返りましょう。

◇定期テストを実施し、テスト1週間前から部活動等がない。テスト勉強に集中しましょう。

小学校のときは、単元が終わる毎にテストを行いましたが、中学校では、学期に2回、中間テスト（主に5教科）と期末テスト（9教科）を行います。

テスト1週間前から、家で集中してテスト勉強を行うための期間を設け、放課後の部活動などはありません。

【2021年度】

| 各学期 | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|-------|-------------------------|--------------------------|--------------------------------------------|
| 定期テスト | 中間テスト（5月中旬） 2日間（午前中） | 中間テスト（10月中旬） 2日間（午前中） | 学年末テスト（3年：1月下旬） （1,2年：2月下旬） 3日間（午前中） |
| | 期末テスト（7月下旬） 3日間（午前中） | 期末テスト（11月下旬） 3日間（午前中） | |

小テストの他にも、1年、2年は、チャレンジテスト（1月中旬）、実力テスト（1月下旬）があります。3年生は、実力テスト（例年5回）、全国学力・学習状況調査（5月下旬）、チャレンジテスト（9月初旬）があります。

◇毎日の家庭学習に計画的に取り組み、定期テストや実力テストに備えましょう。

家庭学習には、宿題だけでなく自学自習もふくみます。日頃から、授業の復習をしたり、学校用の問題集をしたりして、学習内容の定着を図りましょう。テスト前にたくさんの提出物に追われることのないように、計画的に家庭学習に取り組みましょう。

○宿題・・・必ずしなければならない課題です。各教科から出されるもので、課題のプリントや調べ学習など、授業を補完するものです。

○自学自習・・・予習、復習、テスト勉強などのことで、自分で課題を見つけ、学習内容の理解を深めるためのものです。また、自学自習を通して、身近な生活と関連づけて考え自分の意見を持つことが大切です。

★予習とは？

次回の授業範囲の教科書を読んで、意味の分からない語句を調べましょう。教科書を読むことで、授業中の内容理解を深めます。

★復習とは？

今日の授業内容を理解できているか、教科の重要語句や課題の解き方を教科書やノート、プリントを見直して確認しましょう。次に、教科の重要語句を使って学校で購入したワークやプリント類などの課題ができるようにしましょう。分からないときは、自分で考え方や解き方を調べたり、先生、友だちに聞いたりするのも良いでしょう。

そして、自分で説明したり、いろいろな問題をすばやく解けるまで練習したりしましょう。また、漢字や英単語、教科の重要語句については、何か書く紙を準備して、覚えているか書いて確かめましょう。

★テスト勉強とは？

テスト1週間前からテスト当日までの間に、テスト範囲全体の復習をし、覚えていない重要語句を覚え直したり、解けなかった問題を何回もやり直して解けるようにしたりして、テスト当日に向けて十分な準備をするためのものです。

「テストでは、思ったより点数がとれない」と悩む時があるかもしれません。授業で先生の説明が分かっているのに、テストの時に答えを思い出せないことは、多くの人が経験しています。

自分の力をもっと伸ばしたい時、テスト勉強の時と共に、普段の家庭学習をもっとしましょう。ワークやプリントは、定期テストのテスト範囲や提出物にもなっているので、テスト2週間前に仕上げているという人も少なくありません。

予習・復習をするときに大切なこと

1. 「机に向かって座る習慣」を付けよう。

やり慣れていないことは、始めてからしばらくたつと苦しく面倒に感じる場合があります。しかし、続けることによってそれが習慣になると、自分の生活の一部となり、だんだんと自然なこととなります。

2. どの教科をいつ、何を復習するのか、何分ぐらいするのか計画を立てよう。

一日の計画、一週間の計画、「いつまでに」「どこまでやろう」など、目標を立てることも大切です。

3. 何を使って学習するか考えよう。

まずは、学校のワークやプリントを何回もしましょう。

4. 集中できる環境をつくろう。

「～しながら」では、効果も上がりません。

5. まずは復習に力を入れよう。

復習の方が、予習よりもしやすく、自分に合った方法をいろいろと考えることができます。復習で家庭学習の習慣を作り、予習へと進んでいくのがよいかもしれません。

* 次のページから、具体的に各教科の予習と復習の仕方を紹介していますので、参考にしてください。どの学習方法が自分に合うかは、いろいろ試して、初めてわかってくることです。試してみると、さらによい方法が見つかるでしょう。そして、毎日の家庭学習をより効果的にするには、やはり、学校での授業を大切にすることです。

国語の授業について

1 授業の目的

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成する。また、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 目標

言語理解を深め、表現力・想像力・理解力を高める。また、思考力や想像力を養い読む力や聞く力を高めるとともに、自らの思いを適切に伝えるための国語の表現力を養う。

3 学習の心構え

国語の学習は他の教科の学習や社会で生きていくためにも必要不可欠なものであることを認識し、国語の学習に積極的に取り組もうとする意欲を持つ。

4 評価について

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 主体的に学習に取り組む態度 | 授業における積極性 学習課題へのとりくみ 提出物・作品のとりくみ 話し合い活動ができる | ・授業態度 ・提出物 ・各種小テスト ・班活動 ・ふりかえり表 |
| 思考・判断・表現 | 考え・記憶を発表できる 人の意見や情報を理解できる 自分の考えを、読み手にわかるよう工夫してまとめることができる 文章を読解する力がある | ・作品、作文 ・聞きとりテスト ・レポート ・定期テスト ・実力テスト など |
| 知識・技能 | 基本事項の知識・理解・技能を習得している | ・定期テスト ・実力テスト ・各種小テスト など |

国語の自学自習について



予習

① 音読

教科書を声に出して読みましょう。音読は国語力の基本です。何度も何度もくり返し音読することで、内容も理解しやすくなります。また、わからない漢字には必ず読み仮名をふりましょう。読み仮名があれば、正しく覚えることができます。

② メモ欄の活用

ノートに、授業で気づいたこと、ポイントだと感じたこと、疑問点などをどんどん書きとめましょう。復習するとき、自分だけのメモがあると、授業のようすが思い出しやすくて便利です。

③ 文章の読み書きを定着

普段からさまざまな文章をよく読むようにしましょう。本や新聞はもちろん、ポスターやお菓子のパッケージなど、身の回りに文章はたくさんあります。興味をもつことが読む力の向上につながります。また、日記や手紙など、普段から少しでも文章を書いていくと、書くことに慣れることができます。



復習

☆「テスト前にまとめて…」は大変です。学習したその日に必ず復習を。

①音読・ワークシートの見返し

何度も音読してすらすら読めるようになりましょう。また、その日の授業を思い出しながらノートを見返し、先生は何を質問していたのか・ワークシートには何が書いてあるのかを確認しましょう。

②ワークシートの活用

授業を振り返りながら重要な言葉やポイント、授業の感想などを書きましょう。

③白プリント等の活用

実際に問題を解くと応用力が身につきます。何度も繰り返し問題を解きましょう。

ここがポイント！

国語の力は、日々の積み重ねが特に大切です。普段から文章を読んだり書いたりすること。人の話をよく聞き、言いたいことや大事なことが何かをとらえること。自分の考えを人にわかりやすく伝えること。わからない言葉や漢字を調べるくせをつけること。少しずつ習慣になっていけば、おのずと力がついていくはずです。

社会の授業について

1 授業の目的

地理的分野では、世界のさまざまな国の学習を通して、日本という国の自然環境、資源と産業、生活、人口、地域社会の課題について資料や地図を使い、調べながら特色を学習する。歴史的分野では、日本の歴史の大きな流れと各時代の特色が東アジアや世界の人たちとの交流を通して進んできたことや、地域の歴史を調べる方法も学習する。公民的分野では、憲法や政治・経済のしくみを学び、個人と社会生活との関わり、平和な社会を築いていくための課題や国際社会での日本の役割について学ぶことを目的としている。

2 目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

3 学習の心構え

単に授業を受け身の姿勢で受けるのではなく、主体的に授業へと参加し、常に社会の変化に敏感な姿勢を求める。

4 評価について

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none">・社会的事象に対して、関心を持っている。・提出物について意欲的に取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none">・定期テスト・授業中の課題の提出 |
| 社会的な思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none">・授業において、深い思考に基づき、発言をしている。 | <ul style="list-style-type: none">・授業中の課題の提出・定期テスト |
| 社会的事象についての知識・理解 | <ul style="list-style-type: none">・資料から、その内容を読み取り、文章に書き表すことができる。・授業で習得した内容を理解し、その知識が身についている。 | <ul style="list-style-type: none">・定期テスト・授業中の課題の提出 |

社会の自学自習について

予習

事前に教科書で次の授業で習うところを読んでおこう。
わからないところに線を引くなどして先生に質問できる状態
にしておこう。



復習

《地理的分野》

- ① 教科書を5回以上よく読んでおこう。
- ② 授業中に習った重要語句を自分なりに説明できるように、ノートやプリントにまとめておこう。 【資料活用の技能】
- ③ 地域の特徴を理解し、ノートやプリントにまとめておこう。
- ④ 授業で習った部分の問題（ワーク）を3回は解いておこう。 【知識・理解】

《歴史的分野》

- ① 時代の流れをつかむために、年表を見ながら教科書を5回以上読もう。
- ② 時代ごとに特徴（政治の仕組み、人々の暮らし、文化の特徴等）をノートやプリントにまとめてみよう。 【資料活用の技能】
- ③ 授業中に習った重要語句などを自分なりに説明できるように、ノートやプリントにまとめておこう。 【表現】
- ⑤ 授業で習った部分の問題（ワーク）を3回は解いておこう。



《公民的分野》

- ① 教科書を5回以上読んでおこう。
- ② 用語の意味をしっかりと理解しよう。
- ③ 図や表で表されているものを自分の言葉で説明できるようにしよう。 【表現】
- ④ 授業で習った部分の問題（ワーク）を3回は解いておこう。
- ⑤ ニュース・新聞などに目を通そう。 【関心】

ここがポイント！

家での予習・復習を大切にし、できるだけ新聞等を読むようにしましょう。一面のニュースだけを読むのではなく、時間をかけて様々な記事を読むようにしましょう。またテレビのニュースなども見るように心がけ、常に社会の変化に敏感であるように心がけましょう。

数学の授業について

1 授業の目的

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高める。これらを基に、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

2 目標

3年間を通して、

- ① 量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深める。
- ② 数学的な表現や処理の方法を習得し、事象を数理的に考察する力を高める。
- ③ 数学的活動の楽しさ、数学の見方や考え方のよさを知ることによって多面的に物事を捉えたり、論理的に考えたりすることのできる力の基礎を培う。
- ④ 自ら進んで数学を活用しようとする態度を培う。
を目標としています。

3 学習の心構え

学習内容を積み上げていくことが大切です。毎日の授業では話をよく聞き、ノート（記録）をしっかりととり、わからないところを質問するなど、積極的・意欲的に参加することが大切です。また、基礎基本の充実のために、学ぶ領域によって小テストや班学習等を活用して、伸ばすポイントやつまづいているポイントを見つけ、克服していけるように数学科で協力して取り組んでいます。個々に応じた指導をしていくので、わからないことは恥ずかしがらずに言うことと、できる人はわからない人に教えることで自分の知識が定着していくことを理解し、みんなで伸びていくことを考えましょう。

4 評価について

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 知識・技能 | 基本的な計算力や、基本的な事項への理解・概念形成がどれくらい身についているか | 定期テストの該当問題 |
| 思考・判断・表現 | 既習内容をもとにして、応用して考える力やそれを表現する力がどれくらいついているか | 定期テストの該当問題 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 授業内容について真面目に積極的・意欲的に取り組めるか 繰り返し問題に取り組み、課題を克服しようとしているか 数学の知識・技能を日常生活で生かそうとしているか | 授業態度 ノート・宿題等の提出物 ふりかえり |

数学の自学自習について

予習

予習よりも復習しよう！！



復習

① 復習を中心に取り組むことが大切。

ノートや教科書を見ながら、授業でやった問題をもう一度やってみる、参考書や問題集などの問題を解いてみる。とにかく、自分で考えて、紙に書くことが大切です。

【数学的な見方や考え方】

② 間違えたときは赤ペンでチェックを。

間違えた問題は、もう一度解き、なぜ間違えたか考え、理解できるようにしよう。間違った答えや計算の途中式を絶対に消さないで残しておくことが大切です。

【数学的な技能】

③ 数学学習を習慣づけよう。

問題数は、一問でも数問でもいいので、一日最低10分、短時間でも頭を使って復習することが大切です。



ここがポイント！

一度自分で解いた問題を、答えを隠してもう一度解いてみよう。特に間違えた問題を繰り返し行くと、同じ間違いをしなくなり、自分の力になります。

理科の授業について

1 授業の目的について

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2 目標

生物・地学・・・身の回りの現象・物質・電流・化学変化と原子・分子、運動と力、エネルギー・科学技術と人間などについて理解し、これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方ができる。

化学・物理・・・植物、大地の変化・動物、天気、生物の細胞と増え方、地球と宇宙、自然と人間について理解し、これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方ができる。

3 学習の心構え

日々の授業では、話をよく聞きノートを取り、学習内容を理解する。疑問や発問に対して積極的に考え発表し、実験・観察などにも意欲的に取り組む。また、学習内容を定着させるために問題練習をていねいにする。日頃から、自然現象に興味関心を持つことも大切である。

4 評価について

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 知識・技能 | 基本的な技能や、基本的な事項への理解・概念形成がどれくらい身についているか | 定期テスト、実力テストの該当問題、小テスト 実験・観察中の行動観察・実験プリント |
| 思考・判断・表現 | 既習内容をもとにして、応用して考える力やそれを表現する力がどれくらいついているか | 定期テスト、実力テストの該当問題、小テスト、レポート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 授業内容について真面目に積極的・意欲的に取り組めるか | 授業態度、宿題、レポート ノート・宿題等の提出物 |

理科の自学自習について

予習

教科書を読もう。この時声を出して読むことで、理科的(科学的)な表現の文章に慣れます。音読は国語だけでなく理科でも有効です。



復習

授業があったその日に復習しよう。

① 音読する

教科書を声に出して読もう。つまり、音読は目と口と耳を使うことで、脳のはたらきがより活発になり、理解しやすくなります。

② ファイル(授業プリント)を見直し、重要語句を覚える

授業があったその日に、教科書とプリントを見直し、学んだことを思い出しましょう。新しく出てきた言葉(重要語句は、教科書では太字になっています。)はその意味がわかるか確認し、その都度覚えていきましょう。「テスト1週間前にまとめて覚えよう」は大変だ!

③ 教科書の問題・ワーク等を活用する

宿題(教科書のチェックや章末問題など)、定期テスト用ワーク(全学年)や実力テスト用ワーク(3年 ※受験対策用)に取り組もう。実験結果のグラフの読み取り問題などにもチャレンジ!

間違ったり、わからなかった問題は、必ず模範解答を読み、やり直しましょう。



ここがポイント!

授業を集中して聴き、家で今日、何を学んだのか思い出することが大切です。そのためにもノートはていねいに書きましょう。「なぜそうなるのか」という理由や原因を自分で説明できるようになれば、学んだことが十分、分かっているし、忘れにくいと言えます。

英語の授業について

1 授業の目的について

グローバル化している現代に必要とされる英語を学ぶ中で、コミュニケーション能力の育成を図る。聞く・読む・書く・話すといった活動を通し、英語に対する理解や知識を身につける。異文化に生きる人々の生活習慣や考え方をすることで、自分を知り、他者を認める心を養う。国際的な視野を持ち、多様な個性や考え方を受け入れる柔軟性を身につける。

2 目標

英語の音と文字に慣れ親しみ、基礎的な英語表現を実際に使うことができる。学習した文法事項を用いて、自分の考えや意見を英語で書くことができる。コミュニケーション活動を通して、仲間の大切さに気づき、共に学ぶことの意味を知る。入試に対応できる力を身につける。

3 学習の心構え

以下に示す4技能を習得するために、日々の授業を大切にす。

① listening (聞く) ② speaking (話す) ③ reading (読む) ④ writing (書く)

これらの技能を用い、コミュニケーション能力を身につける。

コミュニケーション活動を通し、他人の考えや意見を聞く。また、自分の考えや意見を考え、まとめ、発表する。コミュニケーションを積極的に取ろうとする姿勢を持つことも必要。基礎的な力を身につけるために、日々の宿題や反復練習をこなしていくことも必要。

4 評価について

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 主体的に学習に取り組む態度 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に英語を使おうとしている。 | ①課題に向けての練習状況 ②ワークシートなど ② 振り返り ④音読・暗唱テスト |
| 思考・判断・表現 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を聞いたり、読むことで捉えることができる。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて表現することができる。 | ①ペア活動やスピーチなど ②英作文等の表現に関する筆記テスト(定期テスト) 自己表現作品 ③リスニングテスト(定期テストなど) |
| 知識・技能 | 【知識】 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 【技能】 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について書かれたり話された文章を理解し、捉える技能を身につけている。 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。 | ①文章読解テスト(定期テストなど) ②リスニングテスト(定期テストなど) ③筆記による知識、理解度のテスト<定期テスト> |

英語の自学自習について

予習

New Words を使って単語を先に勉強しよう。

①読める→書けるの順にできるようになろう。

教科書の本文をノートに写そう。(授業準備)



復習

① 教科書の本文を繰り返し読んでみよう。英単語を繰り返し読みながら書いて練習し、覚えるようにしよう。(英語に関する知識の習得)

② ワークや問題集などの問題をやってみよう。わからない問題はあとで先生に質問しよう。

③ 教科書本文を覚えて、自分についての文に書きかえてみよう。

ここがポイント！

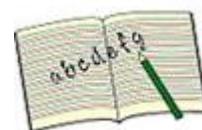
英語の力を伸ばすには、「読む」「聞く」「話す」「書く」の四つの活動を多く取り入れることが必要です。

「書く」ことは、単語や文章を何度も練習したり、問題集を解いてみたりすることで、家庭でも充分できることです。(表現の能力)

「読む」ことは、四つの活動の中で、一番効果的な英語習得方法であると言われています。読めなければ、単語も文章も記号のように映り、たくさん書いても修得が遅れます。(理解・表現の能力)

さらに「読む」ことは「聞く」ことから、そして「話す」ことにも繋がっていきます。

「聞く」ことは授業中でないとなかなかできないことです。



- ・英語を伸ばす近道は、「読む」「聞く」「話す」「書く」四つの活動がすべてできる授業を大切にすることです。
- ・意欲的に興味を持って授業参加をすること。
- ・間違ふことを怖がらずに積極的に発言を！

音楽の授業について

1 授業の目的

音楽を愛好する心情を育て、音楽文化についての理解を深め豊かな情操を養う。

2 目標

合唱や合奏を通じて互いを認め合い協力し合える集団作りを行う。
一人ひとりが努力し豊かに表現できる技能を身につける。

3 学習の心構え

- ・授業を大切にする。
- ・集中して練習する。
- ・クラスが協力して合唱に取り組む。

4. 評価について

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|--------------------------------------|----------------------------------------|
| 知識・技能 | 音楽表現をするための基礎的な知識や技能を身につけている。 | 筆記テスト 実技テスト 練習中の態度 提出課題 |
| 思考・判断・表現 | 音楽を形作っている要素を理解し、表現することへ活かすことができる。 | 筆記テスト 実技テスト 鑑賞レポート 練習中の態度 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 音楽活動を主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 | 授業中の態度 練習中の態度 鑑賞中の態度 提出物・授業準備 |

美術の授業について

1 授業の目的

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てる。

感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばす。

美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

2 目標

3年間を通して

1年：基礎的な技能・知識を身につける

2・3年：基礎的な技能や知識をもとに個性を生かした創造活動をする。

3 学習の心構え

- ・自分の気持ちやイメージを大切に、作品制作を行うこと
- ・提出物は期限を守って提出すること
- ・時間を有効に根気強く制作すること
- ・授業中は静かに話を聞き、集中してとりくむこと
- ・美術の準備物を必ず持ってくること
- ・美術室に移動するときは、チャイムが鳴るまでに着席していること
- ・後片付けをきちんとし、ものを大切にすること

4 評価について

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 知識・技能 | 美術表現をするための基礎的な知識や技能を身につけている。 | 作品の評価 (技能、表現力、完成度) プリント 定期テスト |
| 思考・判断・表現 | 豊かな表現力、想像力をもって表現できる 日本や世界の美術作品に関心を持ち、鑑賞することができる 鑑賞を通じ他者を理解することができる | 作品の評価 (構想、発想) プリント 定期テスト |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 美術に関心を持って意欲的に取り組むことができる 授業で取り組んだことや学んだことを振り返ることができる | 準備物 出席、無遅刻 学習の状況 提出物、プリント 定期テスト |

保健体育の授業について

1 授業の目的

自らすすんで行動し、規律を守り、仲間とともに助けあい、協力しながら運動や学習を行う。

2 目標

3年間を通して

- ・健康な身体・精神を養う。
- ・安全に留意し、自主的に運動を行う。
- ・運動の特性を理解し、生徒が個々の特性を理解した上で、自ら学び、考え、主体的に取り組む。

3 学習の心構え

授業は積極的に参加し、集団で取り組んでいく中で、教えあい、支えあいながら、個人としても集団としても成長できるようにする。

4 評価について

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 知識・技能 | 運動の特性に応じた技能を身につけ、実践の中で発揮している。 健康・安全について理解し、知識を身につけている。 | ・実技テスト（基本動作や応用動作、記録など） ・定期テスト |
| 思考・判断・表現 | 活動の意義を十分に理解し、自ら考え判断し、積極的に授業に取り組んでいる。 | ・授業に取り組む姿勢 ・ノート、レポートなどの内容 ・定期テスト |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 時間・ルールを守り、健康・安全に留意し、授業に取り組もうとしている。 | ・授業内の課題に臨む態度、プリントなどの内容 ・参加状況（出欠状況、遅刻、見学、忘れ物など） ・定期テスト |

技術家庭の授業について

1 授業の目的

生活に必要な基礎的・基本的な知識および技術の習得を通して生活し、技術・家庭科とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

2 目標

技術科・・・『ものづくり』の基礎的・基本的な知識および技術の習得

家庭科・・・生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識および技術を習得し、生活に活かすこと

3 学習の心構え

- ・授業を大切にし、多くの人の話を熱心に聞き、理解する。
- ・実習前の説明・注意事項をよく聞き理解する。
- ・準備物を忘れず、自分の生活や将来に役立てることを意識して、実習を行う。

4 評価について

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 知識・技能 | 授業内容を理解しているか ものづくりや生活に必要な知識・技能を習得しているか 技術の習得・道具の適切な使用方法 | 実習による作品点 提出物 テスト |
| 思考・判断・表現 | 日常生活の課題を解決するための方法や考え方 作品における個性・工夫度 | 実習による作品点 提出物 振り返り テスト |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 授業に対する意志 授業の内容を振り返って改善、実践しているか | 出席状況、準備物 実習の態度 提出物 振り返り |

